

職業実践専門課程の基本情報について

Table with columns for school name, establishment date, principal, location, etc. It includes detailed information about the school's curriculum, faculty, and student outcomes.

<p>経済的支援制度</p>	<p>■学校独自の奨学金・授業料等減免制度： 有  ※有の場合、制度内容を記入  こおりやま東都学園奨学金制度(本校に在籍する全校生を対象に、第1種/第2種/第3種(それぞれ学納金一部免除)を若干名募集する。学業成績や学習態度及び将来の社会的貢献の期待度を基準に選考する。)  ■専門実践教育訓練給付： 非給付対象  ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載</p>
<p>第三者による学校評価</p>	<p>■民間の評価機関等から第三者評価： 有  ※有の場合、例えば以下について任意記載  一般社団法人リハビ  評価団体： リテーション教育評価 受審年月： 平成31年4月 評価結果を掲載した  機構 ホームページURL http://jcore.or.jp/</p>
<p>当該学科のホームページURL</p>	<p>https://www.k-tohto.ac.jp</p>

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業生の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者を含みません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賞金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進学状況等について記載します。

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

本科の教育課程の編成において、医療(理学療法)分野に関する知見のある施設職員や職能団体、学識経験者等が委員として参画する「教育課程編成委員会(医療分野[理学療法])」を設置し、職業に必要な実践的かつ専門的な能力を育成するための教育課程の編成について組織的に取り組み、実践的職業教育の質を確保する。委員会では、業界の人材の専門性に関する動向、地域の産業振興の方向性、今後必要となる知識や技術などを分析し、実践的職業教育に必要な授業科目の開設や授業方法の改善の提案を行い、企業等の要請を十分に活かした教育課程の編成に資する。また、実習連携施設訪問時に得た、指導者からの意見も同様に活用している。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

各学科においては、教育課程編成委員会からの提言や教育課程に対する助言及び評価を受け、教授法の改善や、講義内容・シラバス記載の改善や教育課程の編成に積極的に活用しなければならない。なお、教育課程の変更を要する場合は、学内で検討し、理事会にて承認を受けたのち、法令に則り、所轄官庁へ届け出るものとする。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和4年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
平野 雄三	福島県理学療法士会 副会長	令和4年4月1日～令和5年3月31日(1年)	①
山本優一	福島県理学療法士会 理事	令和4年4月1日～令和5年3月31日(1年)	①
佐藤 竜太	福島県理学療法士会 理事	令和4年4月1日～令和5年3月31日(1年)	①
本田 知久	福島県理学療法士会 活性化委員	令和4年4月1日～令和5年3月31日(1年)	①
長谷川 敬一	福島県作業療法士会 代表理事	令和4年4月1日～令和5年3月31日(1年)	①
佐藤 正彦	福島県作業療法士会 事務局長	令和4年4月1日～令和5年3月31日(1年)	①
宗像 暁美	学校法人智帆学園 琉球リハビリテーション学院 教員	令和4年4月1日～令和5年3月31日(1年)	②
小林 康男	福島県福祉施設士会 会長	令和4年4月1日～令和5年3月31日(1年)	①
関根 誠一	福島県介護福祉士会 副会長	令和4年4月1日～令和5年3月31日(1年)	①
吉津 大管	株式会社あいの里 グループホームあいの里 取締役介護事業本部長	令和4年4月1日～令和5年3月31日(1年)	③
細川 梢	全国保育士養成協議会東北ブロック 研究協力委員	令和4年4月1日～令和5年3月31日(1年)	②
神戸 信行	社会福祉法人青葉学園 常務理事	令和4年4月1日～令和5年3月31日(1年)	③
岡澤 昌宏	エス・エス・ビー 取締役本部長	令和4年4月1日～令和5年3月31日(1年)	③
中島 嘉和	プロックス 代表取締役社長	令和4年4月1日～令和5年3月31日(1年)	③
柳沼 薫	柳接骨院 院長	令和4年4月1日～令和5年3月31日(1年)	③
渡辺 信英	郡山健康科学専門学校 学校長	令和4年4月1日～令和5年3月31日(1年)	—
橋本 雅郎	郡山健康科学専門学校 理学療法学科 学科長	令和4年4月1日～令和5年3月31日(1年)	—
川崎 萌絵	郡山健康科学専門学校 理学療法学科 学科長補佐	令和4年4月1日～令和5年3月31日(1年)	—
安中 聡一	郡山健康科学専門学校 理学療法学科 教員	令和4年4月1日～令和5年3月31日(1年)	—

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「-」を記載してください。)

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回(7月、11月)

(開催日時(実績))

第1回 令和3年7月15日 13:30~15:30

第2回 令和3年11月17日 13:30~15:30

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

臨床実習における学生評価として、昨年(2021)年度よりルーブリック評価を始めた。このことについて好評価をいただいた。結果を個々の学生の課題として教員が共有し、対策の検討に活用していく。

## 2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

実践的かつ専門的な職業教育の専攻分野の職業に係る勤労観及び継続的な学習意欲等の醸成、並びに学科の教育課程の専攻分野の実務に必要な知識、技術及び技能の修得又は向上に資する教育等を通じて、学科の教育活動の質の保証・向上を図ることを基本方針とする。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

学科における講義若しくは実習・実験・実技及び演習の科目について、①学科に在籍する本校の学生に対する講義若しくは実習・演習等の科目の授業の実施、②授業の実施に必要な教材その他教具及び教材等の作成、③授業の内容・方法の改善及び工夫(授業改善等)に向けた検討、④授業における学生の達成度評価の実施、⑤その他双方の協議の上で別途合意した事業の実施、において連携する。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
基礎理学療法学	理学療法士の仕事を理解するため、病院や高齢者施設におけるリハビリテーション業務を見学する。	臨床実習各施設(令和3年度は新型コロナウイルス感染症の感染拡大により中止)
見学実習	病院や高齢者施設における業務を見学する。リハビリテーション医学の一翼を担う理学療法士の役割を理解し、リハビリテーション理念の理解を更に深め、専門家としての態度を養成するための一助とする。	星総合病院、福島赤十字病院、白河厚生総合病院、会津中央病院、常磐病院など34施設。
評価実習	学内で学んだ基礎分野、専門基礎分野、専門分野の知識・技術を総合的に適用し、対象者を理解するために臨床の場面で体験、実践する。学内での学習を特定の対象者に対し、その知識や技術を適用し、どの様な方法にて理学療法を対象者に適用できるか臨床実習指導者のもと学生が考え実践する。	土屋病院、南東北福島病院、かねこクリニック、竹田総合病院、かしま病院など30施設。
在宅リハビリテーション実習	地域包括ケアシステムの強化に資する高度医療人材を育成することを目的に、通所リハビリテーションや訪問リハビリテーションに参加し、その役割やリハビリテーションマネジメント及び関係職種との連携などについて学ぶ。	臨床実習各施設(令和4年度より開始)
臨床実習Ⅰ・Ⅱ	病院等において診療チームの一員として加わり、臨床実習指導者の指導・監督の下で行う診療参加型臨床実習が行われる。評価実習の内容に加え、対象者の障害像の把握、治療目標及び治療計画の立案、治療実践等を行う。様々な疾患・状態の対象者を数多く経験し、経過の観察を通じて理学療法の効果学ぶ。また、臨床録等への記載方法やカンファレンスへの参加など、様々な理学療法表無についても理解を深める。	総合南東北病院、太田西ノ内病院、福島県立医科大学附属病院、北福島医療センター、いわき市医療センターなど41施設。

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係	
(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針 ※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記 教員がその職務と責任の遂行のために必要な知識、技能を修得する場として、専攻分野の実務に関する理解を深め、また指導力の修得・向上を目的に実施する。そこで得た知識、技能等を、講義や実技実習等へおとして、学生に還元することも目的とする。なお実施にあたっては、教員に対する研修の必要性を把握するとともに、研修計画を立て、その研修計画に基づく研修を実施するものとする。	
(2)研修等の実績	
①専攻分野における実務に関する研修等	
研修名： 「第7回日本呼吸理学療法学会各術大会」	連携企業等： 日本理学療法士協会
期間： 令和3年9月26日(日)	対象： 日本理学療法士協会 会員等
内容 呼吸器疾患の評価治療、症例報告等	
②指導力の修得・向上のための研修等	
研修名： 「第34回教育研究大会・教員研修会」	連携企業等： 全国リハビリテーション学校協会
期間： 令和3年10月23, 24日	対象： 全国リハビリテーション学校協会 理学療法士作業療法士養成校 教員
内容 リハビリテーション専門職教育の再考	
(3)研修等の計画	
①専攻分野における実務に関する研修等	
研修名： 第10回日本運動器理学療法学会学術大会	連携企業等： 日本理学療法士協会
期間： 令和4年9月24, 25日	対象： 日本理学療法士協会 会員等
内容 運動器疾患の評価治療、症例報告等	
②指導力の修得・向上のための研修等	
研修名： 第35回教育研究大会・教員研修会	連携企業等： 全国リハビリテーション学校協会
期間： 令和4年10月29, 30日	対象： 全国リハビリテーション学校協会 理学療法士作業療法士養成校 教員
内容 ニューノーマルにおけるリハビリテーション教育の探求	
4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係	
(1)学校関係者評価の基本方針 実践的な職業教育にかかる活動等を評価し、改善・支援等を行うことにより、学生等が関係業界等のニーズを踏まえた質の高い職業教育を享受できるよう、学校運営の改善と専修学校の発展を目指した『自己評価』及び『学校評価』を行うこととする。また、自己評価の結果を学校関係者評価委員会に報告し、意見を聴き、その意見を尊重し、教育活動及び学校運営に活用するとともに、教育活動及び学校運営等の質の保証と向上に継続的に努めなければならない。	
(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応	
ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	1.学校の理念・目的・育成人材像は定められているか。
	2.学校における職業教育その他の教育指導等の特色はあるか。
	3.社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか。
	4.上1～3は学生・保護者に周知されているか。
	5.上1は業界のニーズに合致し、方向付けられた内容か。

(2) 学校運営	<p>1. 目的に沿った運営方針が策定されているか。</p> <p>2. 運営方針に沿った事業計画が策定されているか。</p> <p>3. 運営方針は教職員への周知徹底はなされているか。</p> <p>4. 運営組織や意思決定機能は、規程等により明確化され、有効に機能しているか。</p> <p>5. 人事・給与に関する規程等は整備されているか。</p> <p>6. 教務・財務等の意思決定システムは整備されているか。</p> <p>7. 業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか。</p> <p>8. 教育活動等に関する情報公開が適切になされているか。</p> <p>9. 情報システム化等による業務の効率化が図られているか。</p>
(3) 教育活動	<p>1. 教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか。</p> <p>2. 教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保はされているか。</p> <p>3. 学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか。</p> <p>4. キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発等が実施されているか。</p> <p>5. 関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか。</p> <p>6. 関係分野における実践的な職業教育(実技・実習等)が体系的に位置づけられているか。</p> <p>7. 授業評価の実施・評価体制はあるか。</p> <p>8. 職業教育等に対する外部関係者からの評価を取り入れているか。</p> <p>9. 成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか。</p> <p>10. 資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか。</p> <p>11. 人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか。</p> <p>12. 関連分野における業界等との連携において優れた教員を確保する等マネジメントが行われているか。</p> <p>13. 関連分野における先端的な知識・技術等を修得するための研修や教員の指導力育成等の資質向上のための取組が行われているか。</p> <p>14. 職員の能力開発のための研修等が行われているか。</p>
(4) 学修成果	<p>1. 進学率や就職率の向上が図られているか。</p> <p>2. 資格取得率の向上が図られているか。</p> <p>3. 退学率の低減が図られているか。</p> <p>4. 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか。</p> <p>5. 卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか。</p>

(5) 学生支援	1. 学生に対する経済的な支援体制は整備されているか。
	2. 学生の健康管理を担う組織体制はあるか。
	3. 課外活動に対する支援体制は整備されているか。
	4. 学生の生活環境への支援は行われているか。
	5. 保護者と適切に連携しているか。
	6. 卒業生への支援体制はあるか。
	7. 社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか。
	8. 専門学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか。
(6) 教育環境	1. 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか。
	2. 学内外の実習施設、海外研修先について十分な教育体制を整備しているか。
	3. 防災に対する体制は整備されているか。
(7) 学生の受入れ募集	1. 学生募集活動は適正に行われているか。
	2. 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか。
	3. 学納金は妥当な額か。
(8) 財務	1. 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか。
	2. 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか。
	3. 財務について会計監査が適正に行われているか。
	4. 財務情報公開の体制整備はできているか。
(9) 法令等の遵守	1. 法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか。
	2. 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか。
	3. 自己評価の実施と問題点の改善を行っているか。
	4. 自己評価結果を公開しているか。
(10) 社会貢献・地域貢献	1. 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか。
	2. 学生のボランティア活動を奨励、支援しているか。
	3. 地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか。
(11) 国際交流	1. 留学生の受け入れ・派遣について戦略を持って国際交流を行っているか。
	2. 受け入れ・派遣について適切な手続きが取れる体制が整備されているか。
<p>※(10)及び(11)については任意記載。</p> <p>(3) 学校関係者評価結果の活用状況 『FD委員会の活動量について、大学と比べ、充実度は如何か。』との意見に基づき、昨年度はFDに関わる取り組みを強化した。具体的には、講演会を年2回、研修会を年2回、ミニ勉強会を年5回、授業見学を年16回、授業アンケートを前後期各1回実施し、職員的能力開発に活かした。</p>	

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名前	所属	任期	種別
関根 忠男	医療法人松尾会 松尾病院 リハビリテーション部長	令和4年4月1日～令和5年3月31日(1年)	企業等委員
佐久間 崇	医療法人 健山会 理事	令和4年4月1日～令和5年3月31日(1年)	企業等委員, 卒業生
森山 忠	社団医療法人呉羽会 呉羽総合病院 リハビリテーション科技師長	令和4年4月1日～令和5年3月31日(1年)	企業等委員
荒木 芳一	医療法人 健山会 船引クリニック	令和4年4月1日～令和5年3月31日(1年)	企業等委員, 卒業生
長谷川 敬一	一般財団法人竹田健康財団 竹田総合病院 リハビリテーション部長	令和4年4月1日～令和5年3月31日(1年)	企業等委員
佐藤 正彦	医療法人辰星会 栞記念病院 リハビリテーション室長	令和4年4月1日～令和5年3月31日(1年)	企業等委員
宗像 暁美	学校法人智帆学園 琉球リハビリテーション学院 教員	令和4年4月1日～令和5年3月31日(1年)	学識者, 卒業生
小林 康男	社会福祉法人なごみ 特別養護老人ホームなごみの郷 施設長	令和4年4月1日～令和5年3月31日(1年)	企業等委員
関根 誠一	社会福祉法人東白川福祉会 特別養護老人ホーム寿恵園 施設長	令和4年4月1日～令和5年3月31日(1年)	企業等委員
神戸 信行	社会福祉法人青葉学園 常務理事	令和4年4月1日～令和5年3月31日(1年)	企業等委員
榊枝 晶子	社会福祉法人鏡石町社会福祉協議会 鏡石保育所 主任保育士	令和4年4月1日～令和5年3月31日(1年)	企業等委員
高橋 秀郎	高崎市立くらぶち英語村 学校長	令和4年4月1日～令和5年3月31日(1年)	企業等委員
三田 利幸	株式会社ジャパン国試合格 代表取締役	令和4年4月1日～令和5年3月31日(1年)	企業等委員
小林 敏幸	株式会社テン十字グループ 営業本部長	令和4年4月1日～令和5年3月31日(1年)	企業等委員

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他( ))

URL: <https://www.k-tohto.ac.jp>

公表時期: 令和4年9月1日

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」に則り、本校の現状を開示することで、より本学を正しく理解していただき、関係者からは現状に即した意見を広く求め、それらを活用し、改善に役立てる。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	学校の教育方針及び目標、特色
(2) 各学科等の教育	各学科の教育、入試選抜方法について
(3) 教職員	教職員
(4) キャリア教育・実践的職業教育	実習への取り組み
(5) 様々な教育活動・教育環境	課外活動
(6) 学生の生活支援	学生の学習支援への取り組み
(7) 学生納付金・修学支援	学納金
(8) 学校の財務	財務情報に関する情報
(9) 学校評価	自己評価、学校関係者評価等に関する情報
(10) 国際連携の状況	海外提携校との交流プログラム
(11) その他	学生寮

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他( ))

URL: <https://www.k-tohto.ac.jp>

公表時期: 令和4年9月1日



## 授業科目等の概要

(医療専門課程理学療法学科)																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
1		○		哲学	人間・社会・世界についての常識をもう一度再考し、知を確実なものにする。	2後	30	2	○			○			○	
2		○		心理学	性格や発達などに関する心理学的理論について解説していく。	1前	30	2	○			○			○	
3	○			法学	国家の基本法である憲法と、私人間の日常生活における紛争や解決のための民法を学ぶ。	1後	30	2	○			○			○	
4	○			医療倫理	医療倫理の定義、歴史、原則、課題(問題)について順次、説明する。	1前	30	2	○			○			○	
5	○			社会福祉学	人の生活を支え、よりよく生きていくことを支える仕組みである社会福祉の考え方・枠組み・法制度・技術・歴史などを学ぶ。	1後	30	2	○			○			○	
6	○			統計学	統計学の基本的な考え方と基礎的な手法を学ぶ。	1前	30	2	○			○			○	
7	○			物理学	物理学の内容のうち、特に運動学と関係の深い力学と力学的エネルギーについて学ぶ。	1後	30	2	○			○			○	
8	○			化学	医療関係に携わる学生に対し将来必要と考えられる化学の基礎知識と専門的内容を精選し学ばせる。	1前	30	2	○			○			○	
9	○			保健体育	スポーツと健康について考え、生涯スポーツへと繋がる運動技能を修得する。	1通	60	2	△	○		○		○	○	
10	○			英会話Ⅰ	基本的な英語を学び、コミュニケーションスキルの向上に焦点を当て、実際の状況での英語の使用に自信が持てるようにする。	1前	30	1	○			○			○	
11	○			英会話Ⅱ	基本的な英語を学び、コミュニケーションスキルの向上に焦点を当て、実際の状況での英語の使用に自信が持てるようにする。	2前	30	1	○			○			○	
12	○			骨・筋系解剖学	人体を構成する骨・関節・筋・腱・靭帯・神経・血管などの構造と機能について学習する。	1通	60	2	○			○			○	

13	○		内臓系解剖学	内臓系(消化器系・呼吸器系・泌尿器系・生殖器系)および内分泌系を理解する。	1前	30	1	○			○									
14	○		神経系解剖学	ヒトの働きを知るために、人体の構造と機能を総合的・体系的に理解させる目的で人体の構造を論述する。	1前	30	1	○			○									
15	○		解剖学実習Ⅰ	解剖学の講義で学んだ知識を確認し、骨標本を用いて筋の付着や走向、作用についての理解を深める。	1後	30	1				○	○		○						
16	○		解剖学実習Ⅱ	身体運動に関係する諸器官の形態と機能の関係を復習し、大学の解剖学教室における実習で解剖実習体を用いて確認する。	2後	30	1				○	○	○	○	○					
17	○		神経系機能生理学	生体の運動機能について、生理学の基礎的概念を理解する。	1通	60	2	○			○			○						
18	○		植物機能生理学	臨床医学で病因や機序を探ることができるように、正常な個体の新生・発達・維持のための生体機能(植物機能)について学習する。	1後	30	1	○			○			○						
19	○		生理学実習	人体の機能について、感覚系や運動系または循環や呼吸などの機能に関する基礎を実験的に修得する。	1後	30	1				○	○		○						
20	○		運動学Ⅰ	運動学の概要および上下肢・体幹の動きについて解剖学的知識を含め説明できるようになる。	1通	90	3	○	△					○						
21	○		運動学Ⅱ	主な骨表示点、筋、拍動が触れられる動脈、末梢神経、靭帯などを確認し、体表より触診する技術を獲得する。	2通	90	3	○	△					○						
22	○		人間発達学	新生児から高齢者まで広範にわたるリハビリテーションの対象者の支援につなげるため、人間発達の過程を体系的に学習する。	2前	30	1	○						○						
23	○		病理学	「病気と正常はどこが違うの?」「なぜ違いが出るの?」を考えながら、病気について学ぶ。	2前	30	1	○						○						
24	○		臨床心理学	『ひと』の心理についての理解を深め、実践的な介入法を学ぶことでリハビリテーションの効果をより高めるコツを学ぶ。	2前	30	1	○						○						
25	○		内科学	内科学を系統立て、各種疾患および治療等に対する理解を深める。	2通	60	2	○						○						
26	○		整形外科	運動器疾患の構造と機能を理解し、整形外科的診断、治療法を理解する。	2通	60	2	○						○						
27	○		神経内科学	神経内科学についての一般的知識を得て、疾患の病態について理解を深める。	2通	60	2	○						○						

28	○		精神医学	精神医学全般について、総論では歴史、症状、診断、評価を、各論では各種精神疾患について学習する。	2後	30	1	○			○		○	
29	○		小児科学概論	理学療法士として接する機会が多い小児疾患について、その病態と発達との関連を理解する。	2前	15	1	○			○		○	
30	○		老年学	老年医学、高齢者医療について学習し、高齢者リハビリテーションに求められる考え方を理解する。	2後	30	1	○			○		○	
31	○		薬理学	内科的治療の柱である「薬物療法」についての基礎知識を学ぶ。臨床でよく用いられる代表的薬物の薬理作用を理解する。	2後	30	1	○			○		○	
32	○		作業療法概論	作業療法の歴史、定義、種類、作業療法士の現状と課題、作業療法士の教育、作業療法士の働く病院施設等について理解する。	3後	15	1	○			○		○	
33	○		言語療法概論	構音障害、失語症、嚥下障害など臨床症状を理解し、言語療法や嚥下治療の概要を学ぶ。	3前	15	1	○			○		○	
34	○		リハビリテーション医学	リハビリテーション医療の現状を理解し、将来の職場におけるリハビリテーションチームアプローチをシミュレートする。	1後	30	1	○			○		○	
35	○		リハビリテーション概論	リハビリテーションの歴史的背景から広義のリハビリテーションの目標と技術を概観する。	1前	15	1	○			○		○	
36	○		基礎理学療法学Ⅰ	理学療法の歴史、定義、種類、関係法規、診療報酬、理学療法士の現状と課題、教育、働く病院・施設等について理解する。	1通	60	2	○			○		○	
37	○		基礎理学療法学Ⅱ	理学療法の対象となる疾患や障害に対する治療を見学し、実際の現場で体験学習をする。	2前	30	1		○			○	○	○
38	○		理学療法研究法	グループ学習を通し、専門基礎分野における臨床医学、および専門分野の基礎理学療法学の知識と技術の確立を図る。	4前	90	3	○	△		○		○	
39	○		理学療法マネージメント論	代表的6疾患の病理・機序・評価・治療・経過などについてまとめ、症例から問題点を治療プログラムを立案する。	4前	30	1	○			○		○	
40	○		理学療法特論	神経・筋疾患、がん、皮膚障害、ウイメンズヘルスの概要と理学療法に必要な知識と思考・判断過程について学習する。	2後	30	1	○			○		○	
41	○		理学療法演習Ⅰ	理学療法士(医療人)にとって必要なマナーやコミュニケーションの方法、記録の書き方を理解し、実践できるようにする。	1前	30	1		○		○		○	
42	○		理学療法演習Ⅱ	コミュニケーションスキルや協調性についてグループ活動を通して学び、郡山市障害者福祉センターの健康運動教室に参加する。	2後	30	1		○		○	○	○	

43	○		理学療法演習Ⅲ	代表的疾患の評価技能及び医療人として相応しい態度が備わっているかを客観的臨床能力試験（OSCE）にて総括的に評価する。	3前	30	1		○	○	○							
44	○		医療英会話	話題となっている疾患に関し、医師や患者の立場で、習慣的に実際に用いられる医学英語に触れる。	3後	30	1	○		○								○
45	○		総合演習	グループ学習を通し、理学療法における知識と技術、及び臨床的思考確立の集大成とする。	4後	150	5		○	○	○							
46	○		医療入門	社会人基礎力向上を図るため、現在の日本の医療や社会問題をテーマとしたグループディスカッション、グループワークを行う。	1前	30	1	○		○	○							
47		○	スポーツ理学療法学	理学療法学の知識と手段を用いて治療や予防、パフォーマンスの向上を図るスポーツ理学療法について学習する。	3後	30	1	○		○	○							
48		○	医療統計学	医療統計解析の結果を解釈・評価するための基礎的な知識を学ぶ。	3前	30	1	○		○								○
49	○		検査・測定演習Ⅰ	理学療法評価に必要な専門用語を学び、理論を理解し、各検査・評価法を修得する。	2通	90	3	○	△	○	○							
50	○		理学療法評価学	典型症例を参考にレポート等の作成演習を実施し、系統的評価、問題点抽出、治療プログラム立案の意義目的を理解する。	3通	60	2	○	△	○	○							
51	○		リハビリテーション工学演習	生活支援、福祉工学の観点から工学的手法と思考を発展させたリハビリテーション工学の概要等について学習する。	3前	30	1		○	○	○							
52	○		運動療法学	解剖学・生理学・運動学・病理学などを踏まえ、基本的な運動療法の理論と実際を学ぶ。	2前	30	1	○		○	○							
53	○		検査・測定演習Ⅱ	理学療法検査・測定及び評価の目的や意義を理解し、実際に検査・測定を行う。	3前	60	2	△	○	○	○							
54	○		運動療法演習	基本的な運動療法の技術・手技を学び、運動療法を治療の手段として用いることができるようにする。	2後	60	2	△	○	○	○							
55	○		義肢・装具学	切断の種類・手技、義肢の種類・名称・適応・チェックアウト、バイオメカニクス、切断の基本的リハビリテーションを理解する。	2通	60	2	○		○	○							
56	○		義肢装具学演習	短下肢装具の再掲を行う。義肢装具士によるソケット等の作成の工程を見学して、製法や留意点などを学ぶ。	3後	30	1	○		○	○							
57	○		日常生活技術論	日常生活活動に必要な評価、リハビリテーション支援機器の適用と指導法、基本的な動作と複合動作の介助法を学ぶ。	2前	60	2	○		○	○							

58	○		物理療法学	各種エネルギーを治療の応用する学問であり、病理と患者の抱える問題に対して各種エネルギーの特徴を知りその利用法を学ぶ。	3通	90	3	○	△		○	○						
59	○		中枢系理学療法学Ⅰ	中枢神経系疾患で代表的な脳血管障害と脊髄損傷の病態とメカニズムについて、基礎知識を学び理解を深める。	2後	30	1	○			○	○						
60	○		中枢系理学療法学Ⅱ	中枢系疾患患者に対する理学療法理論を理解し、臨床現場で行われている様々なアプローチ方法を実技を中心に学ぶ。	3通	90	3	△	○		○	○						
61	○		筋骨格系理学療法学	筋骨格系疾患についての知識を修得し、系統的評価・治療方法、理学療法上の注意・禁忌事項について理解する。	3通	90	3	△	○		○	○						
62	○		老年期理学療法学	高齢者の運動機能の特性、評価、運動療法の展開を段階的に講義を進行する。	3前	30	1	○			○	○						
63	○		小児発達系理学療法学	発達障害児に対する理学療法を実践するために必要な治療理論と原理を学ぶ。	3前	30	1	○			○		○					
64	○		呼吸・循環器系理学療法学	内部障害の病態・生理について確認するとともに、各疾患ごとの理学療法の評価・プログラム・リスク管理について学ぶ。	3通	60	2	○	△		○	○	○					
65	○		日常生活技術演習	各疾患の病的背景を理解し、ADLの実技を通して、患者の社会復帰を妨げる環境的・経済的・心理的要因について検討する。	3通	60	2		○		○	○						
66	○		地域理学療法学	地域リハビリテーションが行われる背景としての法制度を復習し、地域理学療法の内容と役割について学習する。	3前	30	1	○			○	○						
67	○		生活環境・機器論	障害者や高齢者、その家族等の住環境について、どのような整備や配慮が必要かをリハビリテーション機器を交えて講義する。	1通	60	2	○	△		○	○						
68	○		看護・介護概論	理学療法士が職場において連携を図ることの多い看護・介護の専門職の役割を理解する。	1後	15	1	○			○							○
69	○		福祉住環境論	高齢者や障害者が地域社会で生活が継続できるように、生活の利便性や安全性向上のための住環境整備について学習する。	2前	30	1	○			○	○						
70	○		実習オリエンテーション	実習で求められる知識、技術を習得し、その成果を客観的臨床能力試験（OSCE）で確認する。	3前	45	1		○		○	○						
71	○		評価実習	学内で学んだ知識・技術を総合的に適用し、対象者を理解するために臨床の場面で体験、実践する。	3後	135	3				○	○	○	○				
72	○		臨床実習	これまで学んだ知識・技術をもとに、一連の理学療法を臨床の現場で実践する。チーム医療を体験する。	4通	630	14				○	○	○	○				
合計						72 科目			125 単位（単位時間）									

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件：	所定の修業年限在籍し、規定する科目を履修し、必要な単位を修得した者で、卒業判定会議の議を経て認定する。	1 学年の学期区分	2 期
履修方法：	学科が定める履修すべき単位を全て履修すること。必修科目は、そのすべてを履修しなければならない。選択必修科目は定められた必要単位数以上を選択し、履修する。	1 学期の授業期間	15 週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3 (3) の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

## 授業科目等の概要

(医療専門課程理学療法学科) 令和4年度 令和2年度入学生より ※1・2・3年次のみ															
分類	授業科目名			授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
								講 義	演 習	実験・実習・実技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
必修	選択必修	自由選択													
1	○		法学	国家の基本法である憲法と、私人間の日常生活における紛争や解決のための民法を学ぶ。	1後	30	2	○			○		○		
2	○		医療倫理	医療倫理の定義、歴史、原則、課題(問題)について順次、説明する。	1前	30	2	○			○		○		
3	○		社会福祉学	人の生活を支え、よりよく生きていくことを支える仕組みである社会福祉の考え方・枠組み・法制度・技術・歴史などを学ぶ。	1後	30	2	○			○		○		
4	○		統計学	統計学の基本的な考え方と基礎的な手法を学ぶ。	1前	30	2	○			○		○		
5	○		物理学	物理学の内容のうち、特に運動学と関係の深い力学と力学的エネルギーについて学ぶ。	1前	30	2	○			○		○		
6	○		化学	医療関係に携わる学生に対し将来必要と考えられる化学の基礎知識と専門的内容を精選し学ばせる。	1前	30	2	○			○		○		
7	○		情報リテラシー	周辺機器を含むコンピュータハードウェアの取扱い、電子メール・インターネットの使用方法・マナー、ファイルやフォルダの操作、文章作成ソフト・プレゼンテーションソフトの使用法を講義および演習で習得する。	1後	30	2	○			○		○		
8	○		コミュニケーション論	医療従事者に求められるコミュニケーション能力を養うため、グループ(またはペア)での体験学習を行う。	1前	30	2	○			○		○		
9	○		保健体育	スポーツと健康について考え、生涯スポーツへと繋がる運動技能を修得する。	1通	60	2	△	○		○		○	○	
10	○		外国語	基本的な英語を学び、コミュニケーションスキルの向上に焦点を当て、実際の状況での英語の使用に自信が持てるようにする。	1前	30	1	○			○		○		
11	○		解剖学 I	人体を構成する骨・関節・筋・腱・靭帯・神経・血管などの構造と機能について学習する。	1前	60	2	○			○		○		

12	○		解剖学Ⅱ	内臓系(消化器系・呼吸器系・泌尿器系・生殖器系)および内分泌系を理解する。	1後	60	2	○			○								
13	○		解剖学実習	身体運動に関係する諸器官の形態と機能の関係を復習し、大学の解剖学教室における実習で解剖実習体を用いて確認する。	2後	30	1				○	○	○	○	○				
14	○		生理学Ⅰ	生体の運動機能について、生理学の基礎的概念を理解する。	1通	60	2	○			○		○						
15	○		生理学Ⅱ	臨床医学で病因や機序を探ることができるように、正常な個体の新生・発達・維持のための生体機能(植物機能)について学習する。	2通	60	2	○			○		○	○					
16	○		生理学実習	人体の機能について、感覚系や運動系或いは循環や呼吸などの機能に関する基礎を実験的に修得する。	1後	30	1				○	○		○					
17	○		運動学Ⅰ	運動学の概要および上下肢・体幹の動きについて解剖学的知識を含め説明できるようになる。	1通	60	2	○			○		○						
18	○		運動学Ⅱ	主な骨表示点、筋、拍動が触れられる動脈、末梢神経、靭帯などを確認し、体表より触診する技術を獲得する。	2通	60	2	○			○		○						
19	○		人体の構造と機能	人体がどのように成り立っているのかを学ぶ。人体を構成する各器官の基本的な構造(形態)とはたらき(機能)について学習し、解剖学・生理学・運動学の理解につながるイメージをもてるよう取り組む。	1前	30	1	○			○		○						
20	○		人間発達学	新生児から高齢者まで広範にわたるリハビリテーションの対象者の支援につなげるため、人間発達の過程を体系的に学習する。	2前	30	1	○			○		○						
21	○		公衆衛生学	健康の維持・増進、疾病の予防に関して理解する。医療法や医療体制を学び、医療従事者として必要な知識を理解する。	1後	30	1	○			○		○						
22	○		病理学	「病気と正常はどこが違うの?」「なぜ違いが出るの?」を考えながら、病気について学ぶ。	2前	30	1	○			○		○						
23	○		臨床心理学	『ひと』の心理についての理解を深め、実践的な介入法を学ぶことでリハビリテーションの効果をより高めるコツを学ぶ。	2前	30	1	○			○		○						
24	○		内科学	リハビリテーション専門職として身につけるべき知識を得るため、内科的疾患の症候、および検査と治療の概要を学ぶ。	2通	60	2	○			○		○						
25	○		整形外科学	運動器疾患の構造と機能を理解し、整形外科的診断、治療法を理解する。	2通	60	2	○			○		○	○					



26	○		神経内科学	神経内科学についての一般的知識を得て、疾患の病態について理解を深める。	2通	60	2	○			○	○	○	
27	○		精神医学	精神医学全般について、総論では歴史、症状、診断、評価を、各論では各種精神疾患について学習する。	2前	30	1	○			○		○	
28	○		小児科学	理学療法士として接する機会が多い小児疾患について、その病態と発達との関連を理解する。	2後	30	1	○			○		○	
29	○		老年学	高齢期における各種疾患の特徴を学習する。老年医学、高齢者医療について学び、高齢者リハビリテーションに求められる考え方を理解する。	2後	30	1	○			○		○	
30	○		薬理学	内科的治療の柱である「薬物療法」についての基礎知識を学ぶ。臨床でよく用いられる代表的薬物の薬理作用を理解する。	2後	30	1	○			○			○
31	○		内部障害学	虚弱高齢者の特徴や転倒予防、代謝疾患と栄養、ウィメンズヘルス・メンズヘルスについて学び、医療従事者として必要な知識を得る。	3前	30	1	○			○		○	
32	○		疾病と障害の成り立ち	健康から疾病に至るまでの家庭や回復の機序など、ヒトの生体反応について理解を深める。	3前	30	1	○			○		○	
33	○		リハビリテーション医学	リハビリテーション医療の現状を理解し、将来の職場におけるリハビリテーションチームアプローチをシミュレートする。	1後	30	1	○			○		○	
34	○		医療入門	医療専門職としてふさわしい礼儀や接遇態度を身につけるため、医療専門職の役割や求められる姿勢について学ぶ。	1前	30	1	○			○		○	
35	○		看護・介護概論	医療・福祉の現場において、多くの専門職が連携を図り、一人ひとりが健康に暮らすことを支えるために協業している。職場において連携を図ることの多い看護・介護の専門職の役割を理解する。	3後	30	1	○			○			○
36	○		作業療法概論	作業療法や作業療法士について理解を深め、理学療法士としての資質を醸成する。	3後	30	1	○			○			○
37	○		言語療法概論	言語障害、高次脳機能障害、聴覚障害、摂食嚥下障害など臨床症状を理解し、言語療法や嚥下治療の概要を学ぶ。また「コミュニケーション」についてより理解し、作業療法場面への応用を学ぶ。	3前	30	1	○			○			○
38	○		基礎理学療法学	理学療法士の仕事を理解するため、理学療法法の基盤となる領域を幅広く学ぶ。	1通	60	2	○	△		○	○	○	○
39	○		理学療法学特論	がんのリハビリテーション、神経・筋疾患、皮膚障害、ウイメンズ・ヘルスの概要と理学療法に必要な知識と思考・判断過程について学習する。	2後	30	1	○			○		○	

40	○		理学療法演習Ⅰ	理学療法について幅広く学び、理学療法士に必要な技術や能力を理解する。グループワークを通じ、コミュニケーション能力を身につける。	1後	30	1		○	○	○								
41	○		理学療法演習Ⅱ	コミュニケーションスキルや協調性についてグループ活動を通して学び、郡山市障害者福祉センターの健康運動教室に参加する。	2後	30	1		○	○	○	○							
42	○		理学療法演習Ⅲ	臨床実習へ参加するにあたり、主として中枢神経疾患に対する評価技能の習得、および医療人として相応しい態度を身につける。	3前	30	1		○	○	○								
43	○		医療英会話	種々の疾患を通じ、臨床の現場で用いられる医療英会話を体験する。	3後	30	1	○		○									○
44	○		理学療法研究法	医療統計解析の結果を解釈・評価するための基礎的な知識を学ぶ。医療統計解析の研究デザインの基本的な考え方と方法について学習する。	3前	30	2	○		○		○							
45	○		理学療法マネジメント論	事例を検証することで新たな考え方を模索する。生活機能をICFの観点で整理し患者像を把握し、問題点抽出・目標設定を行う。	2通	90	3	○		○		○							
46	○		総合演習	グループ学習を通じ、理学療法における知識と技術、及び臨床的思考確立の集大成とする。本講義には卒業試験が含まれる。	3通	90	3	△	○		○		○						
47	○		理学療法管理学	多職種との連携のうえで業務を行うリハビリテーション専門職として、理学療法士に求められる管理・マネジメントについて学び理解を深める。	3前	30	2	○		○		○							
48	○		検査・測定演習	理学療法評価を実施するにあたり必要な検査測定技術を身につける。また、それぞれの検査・測定を行う意義について理解する。	2通	90	3	△	○		○		○						
49	○		理学療法評価学	整形外科系疾患と中枢神経疾患の症例に対する理学療法評価の抽出、およびリスクに配慮した評価の実施方法を学ぶ。	3通	90	3	△	○		○		○						
50	○		運動療法演習	基本的な運動療法の知識と技術を学び、学生同士で運動療法を実施する中で、人の身体を動かす方法や注意点なども習得する。	1通	60	2		○		○		○						
51	○		義肢・装具学	切断およびその理学療法について学ぶ。各種義肢・装具について、適応・チェックアウト、バイオメカニクスを理解する。	2通	60	2	○			○		○						
52	○		義肢装具学演習	義肢装具のチェックアウト、異常歩行について再確認する。短下肢装具の採型や義肢装具士によるソケット等の作製の行程を見学して製法や留意点などを学ぶ。	3後	30	1		○		○		○						
53	○		日常生活技術論	対象者の生活像を把握する為に日常生活活動（ADL）の概念や範囲を理解し、必要な評価とその方法を身につける。	2前	30	1	○			○		○						
54	○		物理療法学	各種物理的刺激（温熱・寒冷、電気・電磁波、機械的刺激など）生体に与えることによって得られる反応を治療や予防に用いる手段を学ぶ。	3前	60	2	△	○		○		○						

55	○		神経系 理学療法学Ⅰ	主に中枢神経系疾患で代表的な脳血管障害と脊髄損傷の病態とメカニズムについて基礎知識を学び、理解を深める。	2通	60	2	○	△		○	○					
56	○		神経系 理学療法学Ⅱ	中枢神経疾患患者に対する理学療法の理論を理解し、臨床現場で行われているアプローチ方法や評価方法について実技を通して学ぶ。	3通	60	2	○	△		○	○					
57	○		筋骨格系 理学療法学	種々の運動器障害に対する基本的な手技の理論が理解でき、実際に学生同士でその手技を実行できるようにする。	3通	90	3	△	○		○	○					
58	○		小児発達系 理学療法学	小児理学療法における代表的な疾患、障害の特徴、理学療法の考え方について、講義および実技演習を通して理解する。	3前	30	1	○			○	○					
59	○		呼吸・ 循環器系 理学療法学	内部障害の病態・生理的背景について理解し、また各疾患ごとの理学療法評価・プログラム・リスク管理に関して学ぶ。	3通	60	2	○	△		○	○					
60	○		日常生活 技術演習	対象者の生活像を把握し、効果的な援助・指導を行うために、基本動作および移乗動作の観察・分析および指導方法・介助方法を身につける。	3後	30	1		○		○	○					
61	○		スポーツ 理学療法学	対象者の健全なスポーツへの取り組みをサポートするために、メディカルサポートとトレーニングサポートの現状、競技特性や障害発生メカニズムを理解する。	3後	30	1	○			○	○					
62	○		内部障害 理学療法学	リハビリテーション専門職として身につけるべき知識を得るため、疾患の症候、および検査と治療の基礎を学ぶ。	3後	30	1	○			○	○					
63	○		生活環境論	高齢者や障害者が、住み慣れた地域社会での生活が継続できるように、生活の利便性や安全性向上のための住環境整備について学習する。	2通	60	2	○	△		○	○					
64	○		地域 理学療法学	地域における理学療法の役割を理解するため、医療・保健・介護分野における地域リハビリテーションの概念と支援体制について学ぶ。	3前	30	1	○			○	○					
65	○		見学実習	リハビリテーション医学の一翼を担う理学療法士の役割を理解し、リハビリテーション理念の理解を更に深め、専門家としての態度を養成する。	2前	45	1				○	○		○	○		
66	○		臨床実習Ⅰ	学内で学んだ基礎・専門基礎・専門分野の知識・技術を総合的に適用し対象者を理解するために、臨床の場面で理学療法評価および治療を体験、実践する。	3後	180	4				○	○		○	○		
67	○		在宅 リハビリ テーション 実習	地域包括ケアシステムにおける通所リハビリテーションや訪問リハビリテーションの役割、およびリハビリテーションマネジメントについて学ぶ。	3後	45	1				○	○		○	○		
68	○		臨床実習Ⅱ	実習指導者の指導のもと、学内で修得した知識・技術を活かし、評価から治療、ゴール・プログラムの立案、記録という一連の理学療法を実施する。	4通	720	16				○	○		○	○		
合計					68	科目		124 単位（単位時間）									

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
卒業要件： 所定の修業年限在籍し、規定する科目を履修し、必要な単位を修得した者で、卒業判定会議の議を経て認定する。	1 学年の学期区分	2 期
履修方法： 学科が定める履修すべき単位を全て履修すること。必修科目は、そのすべてを履修しなければならない。選択必修科目は定められた必要単位数以上を選択し、履修する。	1 学期の授業期間	15 週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。